

第1回 活動レポート

まちなか再生ミーティング

■ 開催概要

開催場所：ファームプラザ新天町
 開催日時：平成 27 年 11 月 5 日（木）18 時～20 時
 参加者数：37 名

■ オブザーバー

久保田 后子（宇部市長）
 鵜 心治（山口大学工学部教授）
 栗原 清隆（宇部市地方創生推進協議会会長）

1. はじめに

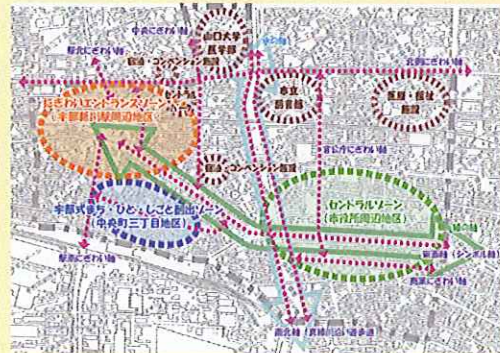
■ 開会

まちなか再生ミーティングの開催に先立ち、3名のオブザーバーから挨拶がありました。久保田市長は、地方創生が求められる昨今の地方都市の現状に対して、参加者からの「まちなか再生」のためのアイデアに対する期待を述べました。



■ 宇部市のまちづくりの方向の説明

中心市街地に関連して、H27年3月に策定した「宇部市にぎわいエコまち計画」の概要として、市が目指すべき将来の都市像、重点整備地区を示しました。また、「宇部市まちなか活力再生計画」と「宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要説明をしました。



重点整備地区

将来都市像の実現に向けた取り組み

- 取組1 都市機能の集約化**
 (基本方針) 多様な機能が集まった、歩いて暮らせるまちづくり
- 取組2 公共交通の利用促進**
 (基本方針) 公共交通など、便利でエコな移動ができるまちづくり
- 取組3 建築物の省エネ化、エネルギーの効率的利用**
 (基本方針) 地球にやさしく、賢くエネルギーを利用できるまちづくり
- 取組4 みどりの保全・創出**
 (基本方針) 緑・花・彫刻など、うるおいが感じられるまちづくり

2. 『まちなか』ってどんなところ？

参加者に下の項目について、宇部市の「まちなか」に対するイメージを質問をさせていただきました。それぞれの質問について、自分の考えと一致する選択肢を選んでもらい、回答と一致する色の旗を上げることで、宇部市の「まちなか」に対する、参加者相互のイメージを確認しました。



回答の集計結果は、下の図に示すとおりです。

「まちなか」に対する参加者イメージの集計結果

①宇部市の賑わいはどこにあると思うか



②中心市街地でよく行くところはどこか



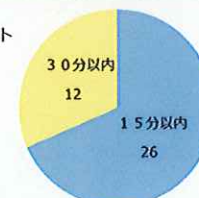
③中心市街地へは何の目的で行くか



④中心市街地へは何で行くか（手段）



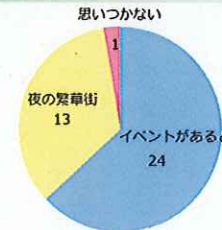
⑤自宅から中心市街地に行くには、どの位時間がかかりますか？



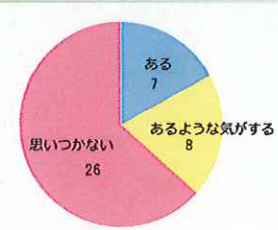
⑥中心市街地へでかける頻度は



⑦中心市街地が賑わっていると感じるときはいつか



⑧中心市街地のシンボルと言えものはありますか？



《オブザーバーのコメント》

久保田市長：想像通りです。シンボルがあるようでないような・・・という宇部市の実状を再認識できました。

鵜 教授：想像通りの結果。「思いつかない」ということは、まちのイメージが描かれていないという事。

宇部市はイメージ作りから始めなくてははいけません。

栗原 会長：想定通りの結果。そういった意味では、宇部市が抱える問題は明確です。

3. 『まちなか』の強み、弱みって何だろう？

宇部市の「まちなか」の現状について、他の地域と比較した場合の『強み』、『弱み』を参加者全員が考えて発表しました。

「強み」に関しては、商業・業務基盤、医療福祉、交通環境が既に整備されていること、高齢者にとって安心できる環境があることなどが挙げられました。

「弱み」に関しては、市民、特に学生の居場所や活動の場がないこと、空き家、空き店舗等が多く、建物が老朽化していること、歩行者が少なく賑わいが感じられないことなどが挙げられました。



《まちなかの強み》

魅力	<ul style="list-style-type: none"> 個性豊かな飲食店とお店の強いつながり 彫刻、記念館の存在感 夜の中心市街地（居酒屋等） 花火大会、宇部まつり、ピエンナーレなど
交通	<ul style="list-style-type: none"> 下水、道路、公共交通などのインフラ アクセスのしやすさ（小野田、空港方面） 徒歩自転車移動可能（平坦でコンパクト）
機能	<ul style="list-style-type: none"> 医療施設が多い 行政、金融機関が集積し、業務に適する
人材	<ul style="list-style-type: none"> 高校生、大学生、高専生など若者がいる 大規模工場に近く、就業者が多い まちを良くしたいという人の存在
可能性	<ul style="list-style-type: none"> まちに明るさがある 宇部方式で公害を乗り切った歴史 先行的に計画が可能（空洞化で土地も安価） 活動の自由度が高い

《まちなかの弱み》

場所	<ul style="list-style-type: none"> 昼に中心市街地に行く魅力が感じられない 人が集う、自由に使えるスペースがない たくさんの学生がいるのに応援する場がない 自然（緑）が豊かな場所を活かしてない
商業	<ul style="list-style-type: none"> 建物が老朽化して使えない、貸せない 商店街に賑わいがなく、歩行者が少ない 空き店舗が多く昼夜ともにぎわいがなく 買い物するところが少ない 魅力のある店がない（買い物、飲食など） 他都市の事業者による商業施設の進出 高齢化による商業（消費）の衰退
人材	<ul style="list-style-type: none"> 人のつながりが弱い 若者が少なく、流出していくこと
交通	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の接続がない、または悪い 宇部線の運行便数の少なさ 小規模店には駐車場がなく自動車の便が悪い
空洞化	<ul style="list-style-type: none"> 空地と駐車場が多く商店街が成立していない 中心がない（駅、商店街が複数、人口拡散） 駐車場が多すぎる

《どちらとも言えない》

- 道路が広くきれいだ、暗いところが多い
- 新天町の商店街がきれいなお店も結構ある。高齢者が多いが、人通りは少ない
- 銀天街がもはや廃墟。だからこそ今からやるところとしては最適

《オブザーバーのコメント》

久保田市長：まちなかの魅力は社会資本が充実していることだという認識は皆さんがお持ちのとおりだと思います。これら今ある資源をどのように使うか、その活かし方こそが求められていると思います。

鵜 教授：再生するという点に関して、何にフォーカスして活動をするかが重要です。弱みを消していく施策が重要であると思われます。

栗原 会長：弱みと強みは表裏一体の関係であるように思います。逆転の発想で、まちなかの弱みを資源と捉えて価値を与えることが必要であると思います。

4. 『若者』が、まちなかで集う、活動、躍動するには？

『若者』が『まちなか』に集い、活動するために必要なものとは何か？について、参加者全員が意見を発表しました。現状、若者が集う場所がないことから、若者のニーズに合った「場づくり」に関する提案が多く挙げられました。まちなかでの若者の活動を活性化するためには、若者と地域とがお互いに求めるものを情報発信し合い、雇用創出、行政や商店による活動補助、居住誘導を若者目線で実施していくことが提案され、若者が自ら主体的、具体的にまちに対してアクションを起こすことを求める意見がありました。

《場所づくり》

おしゃれで、かつよく、快適なまち、場所
 空き店舗を活用したオープンカフェ、マルシェ
 ナショナル・チェーン店を誘致
 お金がかからず集える場所
 用がなくても立ち寄れる場所
 朝まで飲める、騒げる場所
 商店街に広場をつくる
 シンボルロードを活用する
 松濤神社、梶返天満宮の移設

《活動・支援等》

若者目線で市政を考える
 ボランティア活動に対するお店の割引チケット
 若者 DAY（若者に商品を安く提供する）の実施
 若者割に行政が補助
 若者が居住できる住宅を整備する
 仕事、雇用の場をつくる
 異世代、異職種の人から知恵や職能を学ぶ場所

《情報発信と需要の調査》

まちからの情報発信
 情報交換（若者ニーズとシーズの調査）
 若者の活動成果を発信できる場所

《イベント開催》

イベントをたくさん実施する
 市民館広場での歌祭

《交通環境整備》

駐車場を効率よく利用できるシステム
 公共交通の充実



《総 評》

久保田市長：強み、弱み、課題を一つ一つ繋ぎながら、若者がまちに出るしくみをつくっていききたい。大規模な整備ではなく、目の前にあることを段階的に身の丈に合った方法でひとつずつ実現させ、スピード感を持って早く効果を出せるようにしたいと思います。

鵜 教授：若者がリスクを負いながらもチャレンジできる土台づくり、サポートできる地域となればよいと思います。若者は吸着力があり連鎖反応を起こせる存在なので、ライフスタイルを分析し、仕組みづくりをすれば。

栗原 会長：まちなか再生への危機感が人によって随分違うと感じました。10年先ではなく、今後1,2年で動き出す必要があります。民間に出来ないことは官が請け負い、民が参入しやすい土壌を醸成すること、何よりも若者をまちに住ませる施策も必要ではないでしょうか。

今後の開催日程 第2回… 11月19日（木）、第3回… 12月3日（木）、第4回… 12月17日（木）

http://www.city.ube.yamaguchi.jp/machizukuri/toshikeikaku/chuushinnshigalchi/machinaka_saisei_meeting.html

問い合わせ：宇部市まちづくり総合推進室 Tel.0836-34-8896

制作：山口大学都市計画・都市設計研究室、発行：宇部市